

# 《地獄は本当にあります、 私はそこに行ったのです》

…15歳のジェニファー・ペレツの体験

★ この表示付であればコピー・無料配布・インターネット上への転載が自由にできます。

Copyright c. エターナル・ライフ・ミニストリーズ <http://www.eternal-lm.com>

《天国と地獄の情報》 <http://www.tengokujigoku.info>

## ● 私の過去の生活

私の名前はジェニファー・ペレツです。私の両親はクリスチャンです。私もクリスチャンになりましたが、**高校生**になると、私は反動的になり、神様の道から離れました。私は両親に**反抗**し、**麻薬**にのめり込みました。私の友人たちが私にそうするよう教えたのです。私の両親は、私が友人の家で一晩過ごすことは決して許しませんでした。私は授業をさぼっていました。私は学校にもほとんど行っていませんでした。

私は麻薬中毒になりかけていましたが、主イエス・キリストがそういうすべてのものから私を救い出してくださいました。

**私の証し**は1997年五月二日から始まります。私に一人の友人がいました。私たちはただの友達で、それ以上のものではなく、彼もそのことを知っていました。私は彼のことを知ったと思っていましたが、実際は、彼がどういう人なのか本当はわかっていませんでした。その晩、彼は私に電話をかけ、私が外出できるかと尋ねました。

私の両親は家にいませんでした。彼らは金曜日はいつもするように、教会の祈り会に出席していました。私は両親に、自分は体の具合が悪いので家にいたいと話していました。彼らが出かけた後、私の友人が電話をしてきたのです。彼はこう言いました。

「どうして出かけないんだい、ほかのみんなは出かけてるのに？」

私はこう思いました。

「両親には逆らいたくないけど、私がこっそり出かけても、両親に知られることは決してないわ」

こうして私は、そのようにしたのです。

その晩、両親は帰宅して眠りに就きました。私はこっそり出かける用意をしていたので、私の友人に電話をかけ、私の家の通りの角で私を待ってくれるように彼に話しました。私は二階で暮らしていたので、屋根からジャンプして地面の上に降りました。私が道を歩いて行くと、私の友人はもうそこにいました。

ところが私が車に乗り込むと、男の子が三人と女の子が一人いるのが見えました。電話で私の友人に話した時、彼は、私たちは車で町を走るだけだと言っていました。それで私は、「オーケー、それは楽しそうね」と言いました。だから私は出かけたのです。彼が私を**モーター**に連れて行こうとしていることなど、決して思いつきもしませんでした。彼らは私をそこに連れて行ったのです。

そのモーターで私がトイレから戻ると、私のコップにはすでにスプライトが注がれていました。私がそれを飲んだ後、何が起こったのか、私にはわかりません。

## ● 私が連れて行かれた場所

けれども、気が付くと、私は自分の**霊**が私の**体**から抜け出るのを感じました。私はすでに病院の中にいました。私の周囲には医者や看護師たちがいました。

私が私の体から抜け出た時、私の体がベッドの上にあるのが見えました。

おわかりのように、鏡で自分を見る時は、反射した姿が見えます。しかし、私は自分の反射した姿を見たのではなく、ベッドの上にいる私の体を見たのです。

私が振り向くと、**二人の人**がいました。

彼らは「こちらへ来なさい」と言って、それぞれが私の片腕を取りました。彼らは私をある場所に連れて行きました。

私は自分がどこにいるのかを知ろうとして見ると、そこは**天国**でした！

最初に私が見たのは、**とても大きな壁**でした。それは白くて、ずっと遠くにまで広がっていて、終わりがありませんでした。

その壁の真ん中に、一つの**ドア**がありました。長いドアでしたが、それは閉じていました。

そのドアのすぐそばに、大きな**イス**がありました。また、その右側に、それより小さなイスもありました。それらのイスは**金**で造られているように見えました。

私の右側に大きな**黒いドア**がありました。その周囲は**とても暗く**なっていました。それは**醜い**ドアでした。ところが、私の左側は**パラダイス**のようであり、そこには**木々や、透明な水の滝や草**がありました。それは**とても平和に満ちた**場所でしたが、そこにはだれもいませんでした。

私がよく見ると、私の前に**父なる神様**が見えました。ただし彼の**御顔**は見えませんでした。彼の**栄光の輝き**のためです。それは、とても大きく、とても明るく、天国中を輝かせて、明るくしていました。彼の**栄光**はどんなものをも輝かせていました。そこには太陽はなく、月もなく、星もなく、彼がその**光**でした。

私は確かに**彼の体**を見ました。そして彼の体は**御子**とともにおられました。

彼らはお互いの内側で**一つ**となっておられ、彼らは**いっしょ**でした。

彼らを別々に見ることも可能でしたが、彼らは一方が他方の内側におられ、彼らは**いっしょ**でした。

彼らのすぐそばに、**二人の天使、ガブリエルとミカエル**がいました。私が彼らの名前がわかった理由は、彼らの額に**金**でそれが書かれていたからです。

私が御父の御前にいた時、私は自分の**汚れ**を感じました！ 私はひざまずいて泣きました。

私は**自分自身が非常に恥ずかしく**なりました。私は彼らの顔を見ることができたとしても、そうしたくありませんでした。なぜなら、私は**私自身を恥じていた**からです。

私がそこで主の御前にいると、彼は私に**私の人生の映画**を見させてくださいました。始まりから今に至るまでです。

彼は私に、その最も重要な部分は、**私が救われた後に私がしたさまざまなこと**であると語られました。私は私の友人たちに、自分はクリスチャンだと話していましたが、実際には私は自分のクリスチャンとしての**実**を現してはいませんでした。

そして彼は私に、私は**地獄**に行くことになっていると語られました。

## ● 地獄への落下！

天使ガブリエルが来て私の腕をつかみました。彼は私を、あの醜い黒いドアへと連れて行きました。私が見たくもなかったドアでした。

私は自分自身を止まらせようとしたのですが、私は**霊**の状態であり、私たちはそのドアを通り抜けました。

私たちがそのドアの反対側に出ると、周囲は**暗がり**で、私は自分自身も見ることができませんでした。それ

から私たちは**とても速く落下**し始めました。ローラーコースターのようにです。

私が落下していくうちに、**どんどん熱く**なってきました。私は目を閉じました。私たちがどこにいるか、私は見たくなかったのです。

私たちが止まると、私は目を開けました。私は**広い道**の上に立っていました。それがどこに通じているのか、私にはわかりませんでした。けれども、私がそこで最初に感じたのは、**渴き**でした。私は本当に**渴いて**いました！

私はその天使に、「**私は渴いています、私は渴いています**」と言いつけました。

けれども、彼は私の言うことを聞いてもいないようでした。

私は泣き出しました。**涙**が頬を流れているうちに、その涙は完全に蒸発してしまいました。

タイヤが焼けるような、**硫黄の臭い**がありました。私は鼻をふさごうとしましたが、それによってもっと悪くなりました。私の五感はずべて非常に**敏感**になっていました。私がふさごうとした時、その硫黄がもっと良くかき取れるようになったのです。また、私の両腕の小さい**毛**は、全部すぐに消えました。私はその**熱**をすべて感じており、**ものすごい暑さ**でした。

### ● **人々を拷問で苦しめる悪霊**

私があたりを見回すと、人々が**悪霊ども**によって**拷問**を受けているのが見えました。

そこには苦しんでいる一人の**婦人**がいて、一匹の悪霊が彼女を拷問で苦しめていました。この悪霊は彼女の**頭**を切り離し、彼の長い**槍**（やり）で彼女のいたるところを突き刺していました。彼はお構いなしでした。彼女の両目にも、彼女の体にも、彼女の両足にも、彼女の両手にも、彼はお構いなしでした。

それから彼は彼女の**頭**を彼女の体の上に戻して置き、彼女を突き刺し、また彼女を突き刺しました。彼女は**苦悩の悲鳴**を上げて泣き叫んでいました。

それから私は別の悪霊を見ました。この悪霊は、二十一歳ないし二十三歳くらいの若い男性を拷問で苦しめていました。この男性には**首の周りに鎖**が掛けられており、**火の穴**の前に立っていました。

この悪霊は長い槍で彼のいたるところを突き刺し、彼の両目など、いたるところを突き刺しました。

それからその悪霊は彼の**髪**をつかみ、鎖でこの男性をこの**火の穴**の中に投げ込みました。

それから彼をふたたび取り出し、彼を突き刺し、また彼を突き刺しました。これが絶えず続けられていました。

その男性がその穴の内部に入るたびに、私には彼の**悲鳴**が聞こえなくなりましたが、その悪霊が彼を取り出すと、その男性は苦悩で悲鳴を上げました。

私は両耳をふさごうとしました。なぜなら、その音がとても恐ろしかったからです。けれども、それでも私には聞こえました。私の聴力はずっと敏感になっていました。

私は別の悪霊を見ました。この悪霊は醜く、それ以外の二匹の悪霊どもも醜いものでしたが、この悪霊が**最も醜い**のものでした。彼は多くのさまざまな**動物の特徴**を持っていました。私はそれをことばで説明することさえできません。彼はあたりを動き回って、人々を**おびえ**させていました。そして人々は本当におびえていました。

それから私は別の悪霊も見ましたが、この悪霊は**美しい**悪霊でした。彼は神の天使に**似て**いましたが、実際はそうではありませんでした。神の天使たちと悪霊どものちがいは、悪霊は額に**金で名前**が書かれてなく、神の天使たちには書かれていることでした。

その後、私は天使ガブリエルを振り返って見ました。彼は上を見上げていました。私は、彼は人々が拷問を受けているのを見たくないのだと思いました。

私はこう思いました。

「なぜ彼はまだここにいるのかしら？ 私は、あそこで拷問を受ける順番が来るのを待っているのではないかしら？」

私は**渴いて**もいました。そして私はその天使にこう叫びました。

「私は**渴いています**、私は**渴いています**！」

彼は私の言うことを聞いたのだと私は思います。なぜなら、彼は私を見下ろし、こう言ったからです。

「主はあなたにもう一度チャンスを与えようとしておられます」

彼がそう言うと、すぐに私のすべての渴きも、私のすべての苦悩も、私のすべての痛みも、さっと消え去りました。私は**平安**な気持ちになりました。

それから彼は私の片手をつかみ、私たちは上っていきこうとしていました。

### ● 私の名前を呼んだ少女

ところが、突然、私の**名前**が呼ばれるのが聞こえました。

「**ジェニファー、私を助けて、私を助けて!**」

私は下方を見ました。私はそれがだれなのか見たいと思いました。しかし、そうした時、**炎**が彼らの顔を遮断しました。それは**少女の声**のように聞こえました。私には、私に助けてもらいたくて差し出している彼女の両手しか見えませんでした。

私には彼女を助けてあげたいという強い願いがありました。私はそうしようとしても、できませんでした。なぜなら、私の手は彼女の手を通り抜けてしまったからです。私は彼女を助けてあげたいと、とても強く願っていたのです。けれども、おわかりのように、彼女には少しも**望み**がなかったのです。私は彼女を助けることができませんでした。

それから私があたりを見回すと、**私の友人たちや、私の知っている人たち**、またそれ以外の人々も見えました。その人々は、私がよく知っている人々のように見えたが、彼らがだれなのか私にはわかりませんでした。私は彼らの生活を知りませんでした。ところが、**私の学校時代からの友人たち**がそこにいるのを見た時、私は心が痛みました!

私はこう思いました。「もしかしたら、私がクリスチャンだと言いながら元に戻ってしまった、私の悪い証しのせいで、あの人たちは神様のことを知りたいとは思わなくなって、神様からそむいてしまったのではないかしら。もしかしたら、あの人たちをあそこに行かせたのは、私だったのではないかしら」

私はそう思いました。

私は、地獄には**時間**が存在せず、過去も現在も未来もないことがわかりました。けれども、私は何か教理を作り出したいと思っているわけではありません。

これは、**私がそこで見た通りのこと**なのです。

私がそこで見た人々は、**今日もそこで生き続けている**のです。

### ● 「私はあなたを愛しています」

それから、その天使は私をふたたび神様の御前に連れ戻しました。私は彼の御前に立っていた時、ひざまずいて泣き続けていました。私はそれでも彼の御顔を見上げたくはありませんでした。なぜなら、**私は自分を恥じていた**からです。

しかし、主は、とても感じの良い御声で、こう言われました。

「私はあなたを愛しています」

彼はみなさんをも全く同様に愛しておられます。彼はそのことばを私に直接語られました。彼は、私が行って彼を怒らせたどんなことでも私を赦しておられると言われました。彼は私を赦してくださったのです。

神様は私を見つめられ、私に多くのことを示されました。彼は私に、この世界、地球を見せてくださいました。地球の周囲に、オゾン層のような、何か柔らかいものが見えました。それは、この世界の周りにあり、とても柔らかそうに見えました。

私は、それに触れてみたいと強く思いました。私がそれに触れると、それは聖霊であられることに気付きました。なぜなら、それは私にバプテスマを施し、私は異言で話し始めたからです。

その間、私が見上げていると、多くの悪霊どもが私の中から出て行きました。私が麻薬をやっていた時、それによって私の頭は混乱し、さまざまな扉を開けてしまい、これらの悪霊どもが私の中に入ったのです。彼らが私を苦しめていたのです。私がしていたあの振る舞い方は、本当は私ではなく、それは私の中にいた悪霊どもだったのです。私はバプテスマを施されていた時、これらの悪霊どもが見えました。しかし主はそれらすべての悪霊から私を清めてくださいました。

彼は私に将来のことも示されました。彼は私に、地球や、物事がどのように起ころうとしているか、起ころうとしている出来事などを示されました。私に与えられた幻は、現在から携挙までのことでした。

彼は私に携挙を示されませんでした。その前に起ころうとしているさまざまなことを示されました。日々私たちはそれに近づいているのです。

私はみなさんにお話ししますが、携挙は近いのです！ みなさんは自分自身と自分の生活を点検し、「私は主と一緒に行く準備ができているだろうか？」と自問する必要があります。

主は私にこの幻を示されましたが、それをだれにも話してはならず、かえって、待つて終わりが近いことを見なさいと私に語られました。

私は自分が見たことをお話しすることはしませんが、携挙が近いことを、みなさんにお話しし、警告しているのです。

彼は私に、私には使命があると言われました。その使命は、すべての若い人々に私の幻のことを語ることでした。たとえ私がそれをしたくないと思っても、それは主が私にお与えになった命令であり、私はそれを完了させるつもりです。

私が私の体に戻ると、私は目を覚まし、自分が病院の中にいることに気付きました。あたりを見回すと、私の両腕に針があるのが見え、私の心臓を検査しているいろいろなものや、チューブなどが見えました。

まもなく両親が入って来て、私は泣き出しました。彼らは非常に怒っているように見えたが、主は私に、彼らにすべてを話すようにと言われました。

そして私はそうしました。私は両親にすべてを話しました。

一週間後、私たちは警察の人たちと面会し、彼らはあの晩のことを私たちに話してくれました。

私と一緒に行ったもう一人の少女も、外出していないはずであったため、彼女の父親が心配して警察に向き、捜索が開始されました。

あの晩、警察がドアを開けた時、私が信頼していた私の友人が私をレイプしようとしていたところでした。しかし主は警察を用いてすべてを止めさせ、私は何もされずに済みました。それで私は主に感謝しています、主が私にあわれみをかけてくださったからです。

## ● 人生で最も重要な決断とは？

私はすべての若い人々にメッセージを述べたいと思います。あなた自身のことを考え、あなた自身を点検し

てほしいのです。だれかが私のことを何と言おうと私は気にしません。私は以前は、人々が私のことについてどう言うだろうかと思っていました。

しかし、今、彼らは私のことを気にもしていないことを私は理解できます。主が私のすぐ前におられる時、彼らがそこにいることはありません。私は自分が主の御前にいた時のことを覚えています。

私の友人は、私を助けるためにそこにはいませんでした。私の家族は私を助けるためにそこにはいませんでした。私の牧師も、私の教会も私を助けるためにそこにはいませんでした。

**私はそこに一人でいました。そして私は自分を弁護しなければなりません。**

**彼の御前であなたは偽りを言うことはできません。**なぜなら、彼はとても聖い方だからです。

そして私はそこにいた時、自分がそこに属する者であるとは感じませんでした。私は**罪の中**にいたからです。

もしあなたがイエスを**主**として受け入れていないなら、**きょう**、彼を受け入れてください。**これこそが、あなたの全生涯の中で一番重要な決断**なのです。私がこのすべてのことをみなさんにお話ししているのは、神様が私たちに対して持っておられる**あわれみ、愛**を、みなさんにわかってもらえるようにするためです。

父なる神様は彼の御子イエス・キリストを送られました、**私たちのために死なせるため**にです。

こうして、流された血の一滴一滴は、**私たちのすべての罪を赦すため**にです。

もしあなたが主を受け入れたいと思うなら、それは**あなたの人生で最も重要な決断**なのです。

主のもとに来てください。だれか他の人があなたのことについて何と言うかは、気にしないでください。

あなたが主にお仕えしたいなら、**心を尽くして**それをしてください。

口先だけで言うのではなく、心と思いを尽くして、それを言ってください。

将来のことを心配しないでください、きょうのことを心配してください。

**あなたはいつ死ぬことになるか、あなたには決してわかりません。**

私は自分が十五歳で死にかけるとは、一度も考えたことがありませんでした。一度もです。

しかし、あなたはそのことについて考える必要があります。

私の命は私のものではありません。

**あなたの命はあなたのものではありません。**

私たちは自分の人生を横柄に生きていますが、私たちの命は**神様に属するもの**です。

この世界は提供するものをたくさん持っていますが、神様はそれよりはるかに多くの差し出してくださるものを持っておられることを覚えておいてください。

この世界は**地獄と死**を持っており、神様は**永遠の命**を持っておられます。

永遠の命は、いつまでも続くものです。

この証しであなたの心に感じるものがあつたなら、それを友人に**伝えてください**。

そうして彼らも心に神様を受け入れるようになるためです。

この時をただ過ぎ去らせてしまわないでください。

なぜなら、**あなたの最後の時**となるかもしれないからです。

# 地獄は本当にあります、 私はそこに行ったのです！

ジェニファー・ペレッツ

★天国に行った人々・地獄に行った人々\_死の床での証言集！ 順にどれもお読みください。

★ この表示付であればコピー・無料配布・インターネット上への転載が自由にできます。

Copyright c. エターナル・ライフ・ミニストリーズ <http://www.eternal-lm.com>

《天国と地獄の情報》 <http://www.tengokujigoku.info>

# 1 《不信心息子の恐るべき死》

(『天国に行った人々・地獄に行った人々』より抜粋)

## ■息子と両親の会話

【息子】「母さん、俺はあの本（聖書）の中にあるような、くだらないことに、俺の将来の希望を置くようなことは決してしないからね。

十歳の子どものほうが、もっと、まともな話をする事ができて、もっと、ましな本を作れただろうね。

俺は、聖書は今まで人間に押しつけられたうその中で、最悪のものだと信じているよ。

あの詐欺師のイエス・キリストに頭を下げて、彼の救いの功德により頼むくらいなら、俺は地獄に行くほうがまだよ、もしそんな所があるのならね」

【父】「気を付けろよ！ 気を付けろよ！

神は侮られる方ではないからだ。

神は悪者を長く忍耐してくださるが、怒りを永遠に保っておられるわけではない。

どんな罪も赦されるが、聖霊に対する罪は別だ、それには赦しはない。

聖霊に対して罪を犯していた最中に神に打たれた人々の例は、歴史上もたくさんある」

【息子】「もっともだね、父さん、俺はあの本をののしったことで、命を奪われることでも、そのためにどんなに苦しむことでも、受けてやるよ。それを来させてみなよ、俺は少しも怖くないね」

【親】「父なる神様、この罪を彼に負わせないでください、

彼は自分が何をしているのか、わかっていません」

【息子】「いや、俺は自分が今何をしているかも、何を言っているかも、よくわかっているよ。本気さ」

【母】「ジョン、おまえは本気で母さんの気を狂わせるつもりなのかい？

ああ、神様！ 私がこの歳になって、こんな恐ろしい試練に見舞われるとは、いったい私は何をしたというのでしょうか？」

【息子】「母さん、俺が自分の気持ちを話すのを聞きたくないのなら、どうしていつもそういう話題を持ち出すんだい？

それを聞きたくないのなら、二度とそういう話題を持ち出すなよ。

俺は二度とあの本のことは話さないからね」

## ■何か恐ろしいことが...

この会話は、愛情深い両親と一人息子との間で交わされました。

この息子は大学から一時的に家に帰っており、今から大学に戻ろうとしているところでした。

この爆発の原因は、この心優しいクリスチャンの両親が彼に優しい勧めのことばを少しかけようとしたこと

でした。

ところが、なんと、それは**最後の勧告**のこととなりました。

そして、彼は両親にそう言って、家を出て行きました。

この愛情深い両親は、**何か恐ろしいことが起こる**と自分たちに告げられたかのように、彼のことを気にかけていました。

おそらく、この息子は、

「**あなたの父と母を敬いなさい**」 (新約聖書 エペソ書 6・2)

「**けん責されて、うなじを固くする者は、突然、砕かれる。そして、癒しはない**」

(旧約聖書 箴言 29・1)

と言われた方(神)が、自分が言った**あのことばの釈明**をさせるべく、そんなにすぐに自分をお呼びになるとは、思ってもいなかったはずで。

あのことばは、彼の年老いた両親の心をどんなに引き裂いたことでしょうか。

また、それは**聖なる神**の目に、どんなに**恐ろしいことば**であったことでしょうか。

彼はその**恐ろしい考え**を、大学の、一人の**不信心なクラスメート**から受けていました。

若い人々よ、自分がだれと交流するか、気を付けなさい。

この若者が墮落してしまったように、あなたも同じようにならないためにです。

### ■片腕と頭蓋骨の骨折・両足の切断！

ジョン・Bは家を出て、急いで駅に行きました。そこで彼はM行きの列車に乗りました。

そのMで、あと二、三ヶ月すれば彼は学業を修了するはずでした。

列車が数マイル進んだ所で、**カーブ**にさしかかりました。

突然、線路上の何らかの障害物に出くわしました。

そのため、機関車および車両二台が**脱線**しました。

**その瞬間**、ジョン・Bは、車両から車両へと移ろうとしていたところでした。

彼は一瞬にしてデッキから投げ出され、**落下**して、彼の**左腕は骨折し、頭蓋骨も砕かれました**。

そして一瞬の内に、車輪の一つが彼の**胴体近くの両足の上をまともに通過**し、このうえなく恐ろしい仕方で**両足を砕き、ずたずたに切断**しました。

不思議に思われるかもしれませんが、**負傷者は他に一人もいませんでした**。

### ■変わり果てた姿での帰宅

すぐに、この恐ろしいニュースが、悲しみに打ちひしがれていた両親のもとに届きました。

やがて、その息子が両親のもとに運ばれてきました。

彼は、家を出て行った時とはちがって、**担架の上**で横たわり、かわいそうなことに、**ずたずたの状態**で、**わめき散ら**していました。

このニュースがその大学に届くと、彼のクラスメートたちが彼と面会するために急いでやって来ました。

ああ、なんと心を引き裂かれる光景だったことでしょうか！

彼が最初に発したことばは、人が地上で決して聞くことのないような**叫び**でした。

「母さん！ 俺は滅びてしまったんだ！ 滅びたんだ！ 滅びたんだ！

呪われたんだ！ 呪われたんだ！ 永遠に呪われたんだ！」

そして彼のクラスメートたちがベッドの近くに来ました。

彼らの中に、彼の知性を**不信心で害した**、**あの者**がいました。

ジョンは恐ろしい力でベッドから体を起こし、その者を**にらみつけ**、こう**叫び**ました。

「J、おまえが俺をこうしたんだ。

おまえが俺のたましいを滅ぼしたんだ！



全能の神と子羊なる神の呪いが、おまえのたましいの上に永遠にとどまるように」

それから彼は、まるで地獄の悪魔のように、**歯を食いしばり**、その者を**つかんで**彼を粉々に**引き裂こう**としました。

それに続いて、どんなに強い人でもおびえて逃げ去ってしまうような光景が展開しました。

ただし、かわいそうなことに、その両親は、そのすべての事態を見聞きしていなければなりませんでした。というのも、彼は彼らを一瞬たりとも去らせなかったからです。

#### ■彼を地獄へと迎えに来た悪霊ども

彼は憔悴しきってベッドの上で**後ろに倒れ**、こう**叫び**ました。

「ああ、母さん、俺を救ってくれ、  
**悪魔どもが俺を追いかけてきたんだ。**  
ああ、母さん、俺を腕に抱きしめて、**あいつらが俺を捕まえないようにしてくれ**」

そして彼の母が彼に近寄ると、彼は自分を大切に育ててくれた母の胸に顔をうずめました。

しかし、彼は母から離れ、この地上のものではないような声で**金切り声**を上げました。

「父さん！ 母さん！ 父さん、俺を救ってくれ、  
**あいつらが来て、俺のたましいを引きずって行くんだ、...俺のたましいを地獄に**」

彼の**両目**は飛び出しそうになり、ベッドの上で**後ろに倒れて死に**ました。

彼の霊は、**恐ろしい滅び**へと、悪霊どもによって引きずられて行きました。

彼の恐るべき崩落が、知らず知らずのうちに同じ道をたどろうとしている人々への**警告**となりますように。

(『天国に行った人々・地獄に行った人々』より抜粋)

## 2 《 地獄に引かれて行った中国人の少年 》

ハロルド・A・ベイカー (アメリカ人宣教師)

#### ■更正すると約束していた少年

... アデュラムの一人の少年が**地獄**に引きずられて行きました。

彼は、軍隊のある士官から、『使い走り』の役目を**解雇**された少年でした。

私たちは彼が街で幾日も物乞いをしているのを見て、**アデュラム救済ホーム**に彼を連れて来ました。

彼は**更正**することを約束し、**うわべ**はきちんとしているように見せました。

また、かなりの間、**福音**を聞いており、**悔い改めた**と公言していました。

ホームからさまざまな**物が無くなりました**が、その**どろぼう**が見つかったのは、この少年が**盗品を売り**に行

＜途中で捕まった時でした。

それから私たちは彼をホームから出しました。

この少年は、それから数ヶ月間、物乞いの生活をしていました。

この間、彼は、私たちが彼に戻ることを許すなら自分は**更正する**と繰り返し約束しました。

それから私たちは彼にも**もう一度チャンス**を与えました。主も彼にもう一度チャンスをお与えになりました。というのも、生活を正すに十分なまでに、**聖霊の現れ**や**超自然的な啓示**もあったからです。

この少年自身も**聖霊の油注ぎ**を受け、主は彼の**罪**をじかに取り扱われ、彼にも**もっと良い道**を示されました。

#### ■ふたたび罪の生活へ...

そういうすべてのことにもかかわらず、この少年は逃げ去って、物乞いと**どろぼう**をする街の**ギャング**に加わりました。

二、三ヶ月後、彼はころんで**片腕を骨折**し、**感染症**を患うようになりました。そして彼が死にかけていた時、ある病院の職員に拾われました。

ところが、その病院で、彼はあまりにも**不従順**であったため、放り出されました。

そして、彼は路上で死にかけていました。

彼は**悔い改める**との約束をもって私たちのところに来たので、私たちは彼をあわれみ、**もう一度**彼を収容しました。

彼は日一日と、**人生の終わり**に近づいていました。

#### ■彼を地獄へと迎えに来た悪霊ども

彼が死ぬ前の日の晩、私は、**この地上のものではないような悲鳴**で目が覚めました。

それは、何らかの**野生動物**か、何らかの**恐ろしいもの**、**薄気味悪い遠吠え（わめき声）**のように響きました。

その翌日、その少年が死んだ時、私は外出中でした。

彼が死の苦しみの中で横たわっていた時、うれしそうな、**恐ろしい悪霊ども**が彼の周りに集まりました。

彼の**たましい**が彼の**体**から離れようとしていた時、その少年は、自分を捕らえる者どもを見て、**泣き、わめき、悲鳴を上げ**、このうえなく**おびえて**、声の限りに叫びました。

「**ベイカーさん、助けて！ 助けて！ 助けて！**

**ああ、ベイカーさん、すぐに来て！**

**ベイカーさん、ベイカーさん、ベイカーさん！**

**助けて、あいつらがみんな鎖を持って、俺の周りにいるんだ！**

**あいつらが俺を連れに来たんだ。**

**助けて、助けて、ベイカーさん、助けて！**

**あー、あー、あー、助けて！ 助けて！ 助けて！**

**あいつらが俺を鎖で縛ってる。助けて！ 助けて！**

**あー、あー、あー、助けて！ あー、じ...ご...」**

### 3 《 イエス・キリストを拒んで

## 暗いトンネルを通過して地獄へ行った男 》

メリー・アクセルソン (スウェーデン)

在日約55年の女性宣教師の証言

私が二十歳位の時でした。国 (スウェーデン) のある老人ホームで働いていた時のことです。

ある日、Kという名前の老人の体の具合が急変し、亡くなろうとした時のことです。

私は彼のベッドのそばに立っていました。

Kが亡くなる直前、彼は大声で、「助けてくれ！ 助けてくれ！ 見ろ！」と叫びながら、足元をさし、**恐怖に震える声**で言いました。

**「たくさんの悪霊が来て、私を地獄へ連れて行ってしまおうんだ！  
助けてくれ！」**

彼は、そう叫びながら亡くなっていきました。

その時、私が恐れながらKの足元を見ると、そこに**真っ黒なトンネル**がありました。

そして、その中から**真っ黒な服を着て真っ黒な帽子をかぶった悪霊**が出て来ました。

老人の遺体からも、何か灰色の柔らかそうな「もの」(それは老人の体の形に見えました)が出て来ました。

そして、その「もの」は、悪霊によって引張られて**暗いトンネル**の中に連れて行かれ、消えて行ってしまいました。

突然、部屋は**氷のように冷たく寒くなり**、遺体だけがそのままベッドに残っていました。

私は夢を見たのでもなく、幻を見たのでもありません。しっかりと目がさめていました。

あれは、灰色の「**たましい**」なのでしょうか。

それだけではなく、私は悪霊までも見たのです。

私は、「ああ、**福音**を伝えなければならない、しっかりと**イエス様**にとどまらなければならない」と思いました。

Kが亡くなって数週間後、彼の村から一人の方が訪ねて来ました。

それで私は知ったのですが、彼が若かった頃、彼の住んでいた村に大リバイバルが起こり、毎晩毎晩、村の教会で伝道集會が開かれ、多くの人々が救われたそうです。

その時、Kも伝道集會に出席しましたが、どうしても**イエス・キリストを救い主として受け入れる決心**をすることができませんでした。

ある晩のこと、集會中でしたが、Kは立ち上がり、大声で、「**聖霊よ、出て行け！ もう私の所へ来ないでくれ**」と叫んで、外へ出て行きました。

その日以来、彼はまるで**別人**のようになり、**心が石のように硬く、冷たくなり**、神様の御声を二度と聞くことがなかったそうです。聖書に、「語っておられる方を拒まないように注意しなさい」と書いてありますね。

(ヘブル書12・25参照)

地獄は**本当にある恐ろしい所**です。悪霊も実際にいます。

地獄へ**引張られて行く人**を、私はこの目で見たのです。

だれも、**地獄が人生の最後の終着駅となることのないように**、主イエス・キリストをしっかりと信じていただきたいと、私は心から祈っている者です。

(イエス・キリストを拒んで暗いトンネルを通過して地獄へ行った男より)

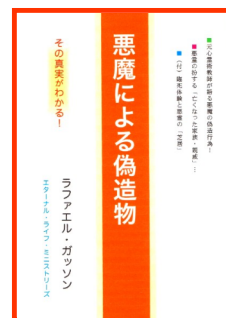
臨死体験で、「花畑」や「亡くなった家族や親戚」などを見たという事例があります。

そういう臨死体験をした結果、「自分は天国の『花畑』を見た」、「自分は死後に天国に行けるとわかった」、「死は怖くないとわかった」、「死の恐怖がなくなった...」などの感想を述べる体験者たちもいます。

けれども、それらは誤解と錯覚です。

本当は、非常に恐ろしい世界を体験しています。

臨死体験の真実と悪魔の偽造行為についての詳細は、『悪魔による偽造物』を参照ください。



## 4 《地獄行きの「暗いトンネル」》

臨死体験は、体験者が真のクリスチャンの場合と、それ以外の人の場合とで、全く異なります。

その後者の場合の証言で、体験者の霊が肉体から離れた後、「トンネル」を通過したという事例が多くあります。

真のクリスチャンたちの臨死体験では、そういう「トンネル」体験をすることなく、「天国」体験をします。（このような事例は、『天国の真実 第一集』『天国の真実 第二集』『天国についての神の啓示』等で多くの体験者が証言しています）

### ■真のクリスチャンたちの臨死体験

神の真の子どもである人が死ぬ時、その人の霊は体から離れ、神の御使い（天使）たちに護衛されて天国へ行きます。（『天国に行った人々・地獄に行った人々』参照）

聖書はこう述べています。

「その貧しい人が死ぬと、彼は御使いたちによってアブラハムのふところ（パラダイス）に連れて行かれた」（新約聖書 ルカによる福音書16・22）

神の人であった預言者エリヤが天に上げられた時も、天使たちに護衛されて上がって行ったことがわかります（旧約聖書 第二列王記2・11）。

ところが、罪人が悔い改めないまま死んだ場合は、彼らに天使が伴ったという記述はありません（ルカ16・22、23参照）。

### ■じょうごの形をした「地獄への入口」

1976年、メアリー・K・バクスター師は40日間にわたり、神によって現実の天国と地獄に案内されました。

彼女自身は「真のクリスチャン」でしたが、そうではない人々が死後に行き着くことになる地獄を案内され、その現実を世界の人々に証言して警告するようにと告げられました。

（詳細はメアリー・K・バクスター著『天国と地獄』『地獄についての神の啓示』）

彼女は地獄に通じる「トンネル」を体験し、こう述べています。

#### 【証言1A】

「**じょうごの形**をしたものがいくつも**地球の中心**に向かってくるくる回転したり、また逆に回転したりしていて、それらが**地球の多くの場所から突き出て**散在していました。

これらのものは地球のはるか上を動いており、絶えず曲がりくねって動く醜悪な巨人のように見えました。これらのものは地球のあらゆる場所から突き出ていました。

...私は主イエス様に『これらのものは何ですか?』と尋ねました。

彼は言われました。

『これらは、**地獄への入り口**です。

私たちは、これらのうちの一つを通して**地獄の中**に入って行きます』

すぐに私たちは、その一つの**じょうごの中**へ入りました。

内側は「トンネル」のようで、くるくる回転したり、また逆に回転したりしていました。

**深い暗やみ**が、私たちの上から下って来ました。...

これは、前述のメリー・アクセルソン師（スウェーデン）が目撃した「トンネル」と同様です。

#### 【証言1B】

ある日、Kという名前の老人の体の具合が急変し、亡くなろうとした時のことです。

私は彼のベッドのそばに立っていました。

Kが亡くなる直前、彼は大声で、「**助けてくれ！ 助けてくれ！ 見ろ！**」と叫びながら、足元をさし、**恐怖に震える声**で言いました。

**「たくさんの悪霊が来て、私を地獄へ連れて行ってしまおうんだ！  
助けてくれ！」**

彼は、そう叫びながら亡くなっていきました。

その時、私が恐れながらKの足元を見ると、そこに**真っ黒なトンネル**がありました。

そして、その中から**真っ黒な服を着て真っ黒な帽子をかぶった悪霊**が出て来ました。

老人の遺体からも、何か灰色の柔らかそうな「もの」（それは老人の体の形に見えました）が出て来ました。そして、その「もの」は、悪霊によって引っ張られて**暗いトンネル**の中に連れて行かれ、消えて行ってしまいました。

（イエス・キリストを拒んで**暗いトンネル**を通して地獄へ行った男より）

これらの証言は、「真のクリスチャン」以外の人々が臨死体験で報告していることと合致しています。

#### ★日本人の臨死体験例

【事例1】「私は**暗いブラックホール**のような**トンネル**に吸い込まれ、**ぐんぐん急降下**し...」

【事例2】「**黒い穴**が...**すごく怖い**... **ブラックホール**みたい」

【事例3】「**暗闇**を...**暗いブラックホール**みたいなところにもものすごい力で引っ張られ...私は**怖くて必死**に抵抗したが...そのまま**ブラックホール**に引き込まれ...」

【事例4】「髪の毛を誰かにつかまれ、暗い、底のない井戸のような場所にぐいぐい引きずり込まれるような...井戸かトンネルかわからないが、下へ引っ張られる感じで、いくらもがいても暗い方へと引っ張られて行った」

#### ★アメリカ人の臨死体験例

ケネス・E・ヘーゲン師がまだ『真のクリスチャン』ではなかった時の証言です。  
(詳細は、『私は地獄に行った!』参照)

#### 【証言2】

「私は肉体から飛び出し...下り始めました...下へ、下へ、穴の中へ下って行きました。  
井戸か洞窟か洞穴の中に下って行くようでした。  
...私は周囲を暗闇で取り囲まれていました。  
...人間が見たことのない、どんな夜よりも暗い闇でした。  
...そしてますます暑くなっていきました。  
そしてついに、私のすぐ下で、光の先端が暗闇の壁にちらつくのが見えました。  
...私とその穴の底に来ると、暗闇の壁に光の先端がちらついた原因となったものが見えました。  
私の前方の地獄の門あるいは入口の向こう側のところに、巨大なオレンジ色の炎が見え、その先端が白くなっているのが見えました。...  
『いったんその門を通して入ってしまったら戻れないだろう』とわかりました」

## 5 《トンネル内に潜む悪霊・恐怖の世界》

ケネス・E・ヘーゲン師は、こう述べています。

#### 【証言2 続き】

「その穴の底で何かの生き物が私と出会ったことに私は気付いていました。  
...私が自分が下って行くのを遅らせようとした時、その生き物が私の腕をつかみ、私を中に入れようとした」 (『私は地獄に行った!』参照)

もし、彼が腕をつかまれたままであったら、地獄に引きずりこまれ、地獄から二度と出られなくなったはず

です。  
しかし、この臨死体験後、彼はイエス・キリストの福音を伝える神の奉仕者となりました。

メアリー・K・バクスター師は、地獄へ通じる「トンネル」を通過していた時、悪霊どもの存在に気付きました。

彼女はこう記しています。

#### 【証言1 続き】

「...そして暗やみとともに、息ができないほどぞっとするにおいがしてきました。  
このトンネルの側面には、壁に生き物たちが埋め込まれていました。  
色は暗い灰色で、私たちが通る時、それらの生き物は動いて私たちに叫びました。  
何も言われなくても、それらのものは悪しき者たちであることがわかりました。  
それらのものは動くことはできましたが、壁にくっついたままでした。  
ぞっとするにおいは、彼らから出ていました。  
そして彼らは、この上なく恐ろしい金切り声で私たちに叫びました。」

私は、目に見えない**悪の力**が**トンネル**の内側を動いているのを感じました。...

『主よ、これらのものは何でしょうか?』と、私はイエス様の手にしっかりつかまりながら尋ねました。彼は言われました。

『これらは、**サタン**が命令を出す時、地上に吐き出される用意のできている**悪霊ども**です』

私たちが**トンネルの内側**を下っていくと、その悪霊どもは私たちを**あざ笑ったり**呼びかけたりしました」(『天国と地獄』『地獄についての神の啓示』参照)

**地獄**には**非常に大ぜいの悪霊ども**が存在します。そこに通じている「**トンネル**」を臨死体験者たちが通る時、そういう「**生き物**」(悪霊)が目撃されています。

## ★日本人の臨死体験例

【事例5】「**不気味な暗いトンネル**又は**大きならせん階段**にも見えるものが現れ...私はこの**暗いトンネル**に立っていることに**恐怖**を感じ...

このトンネル...ありとあらゆる所から**灰色の手**が数多く出てきて**私の手や足をつかんだり髪を引っ張ったり**、たくさんの人々の**うめき声**や**苦しんでいる顔**が浮き出てきたり...**邪魔**をしてきました。

これは地獄の世界なののでしょうか。私は**あまりの恐怖**で叫びながら必死でした」

【事例6】「ものすごい速度で**落下**し始め、**茶色い何とも言えない生物**達が迫ってきました。

そして、無数の茶色い生物に**引っ張られました**。その際に**地獄**だと感じました」

【事例7】「**暗く、怪物のような奇妙な生き物**のいる**気持ちの悪いトンネル**のようなものを通り過ぎ...

臨死体験者たちは**実際に**地獄の中に入ったわけではありません。

なぜなら、いったん地獄に入ってしまうと、出ることは永遠にできないからです。

体験者たちは、ケネス・E・ヘーゲン師のことばで言えば、「**井戸か洞窟か洞穴**」(**トンネル**)の終点である「**穴の底**」、「**地獄の門あるいは入口**」のところにまで行ったと考えられます。

## ■地獄の存在する場所

罪のあるまま死んだ人々について、聖書は、彼らがすぐに**地獄**に行ったことを述べています。(詳細は、『**地獄についての聖書の教え**』参照)

「**地**がその口を開き、彼らと彼らのものをすべて飲み込み、彼らが生きたまま、**よみ(地獄)**に下る...

(民数記16・30)

「**地**はその口を開け...彼らは生きたまま、**よみ(地獄)**に下った。...地は彼らの上を覆った」(民数記16・32、33)

彼らが**下って行った先**に、**よみ(地獄)**が存在しているのです。

「死者の霊は、水とそこに住んでいるものたちの**下**から震える。

**よみ(地獄)**は彼(神)の前に裸であり、**滅びの地**に覆いはない」(ヨブ26・5、6)

「彼らはみな、死に渡される。**地の下の所**へ、人の子らの中、**穴に下る者たち**のもとへ」(エゼキエル31・14。エゼキエル26・20、32・18も参照)

聖書は、**地獄**が**地の下の場所**、すなわち、**地球の中心部**にあることを教えています。(マタイ12・40、エペソ4・9、10等)

聖書が述べているこれらのことは、メアリー・K・バクスター師、ケネス・E・ヘーゲン師ほか地獄を見た多くの人々の証言とも完全に一致しています。

# 6 《偽造された「故人・家族」》

## ■偽造された「亡くなった知人・親戚・動物...」

真のクリスチャン以外の人々の臨死体験で、「トンネル」体験の後、「亡くなった知人・親戚・動物」などとの出会いが報告される事例が多くあります。

## ★日本人の臨死体験例

【事例8】「ブラックホールのような漆黒の大きな穴が目前に見えた。...急に怖くなり、寒気がした。...向こうから亡くなった近所のおばあさんが横切ったり、穴のギリギリのところに立っては消え、おいで、おいで、と...」

【事例9】「気づくと川のほとりに立っていた。川の反対岸には沢山の人がいて、こちらに何か言っている。...親戚のよう。その一番前に、亡くなっている祖父がいて...」

【事例10】「その花畑から、以前飼っていた犬が出てきて...」

【事例11】「昔の友人、親戚一同が一斉に出てきました。三途の川も出てきた。同時に神がたくさん降りてきた。...神が多数出現し、西郷隆盛などの日本の英雄も登場した」

【事例12】「一人で真っ暗闇の中にいた。とにかく出口を探して歩き続けていると、前のほうから幼なじみ  
が手招きをしているのがわかった。

私は嬉しくなって、『〇〇ちゃん！』と声をかけたが、彼女は...何もしゃべらずニコニコ笑って立っただけだった」

## ■人間に変身する悪霊

こういうさまざまな登場人物は、本物のその人なののでしょうか？

聖書はこう述べています。

「サタン自身が光の御使いに変装する...」（第二コリント11・14）

ラファエル・ガッソン氏は、かつて心霊術の教師でしたが、その後、クリスチャンとなりました。

彼の著書『悪魔による偽造物』からも、次のことが明らかです。（「第九章 物質化...偽造の人間と物体」参照）

**悪霊は人間に変身できるのです。**

そういう「登場人物...人間」は、実は、**悪霊どもによる「偽造人間」**です。

悪霊どもは人間の生活を非常に詳細に知っているのです。

ラファエル・ガッソン氏が証言している通り、「人間一人一人の生活をきわめて詳しく調査することができるほど十分な数の悪霊どもが存在する」のです。（第四章）



悪霊どもはその人物の**姿に変身**できるだけでなく、その人物の**性格や背景、内密のことを詳しく知っており**（彼らは『ファミリアー・スピリット』と呼ばれています）、まんまと人をだますことができます。

ラファエル・ガッソン氏はこう証言しています。

### 【証言3 その1】

「私は、一つの部屋が、物質化されて**人間の姿をとった者ども**で満ちていた時のことを覚えています。彼らはみな、同時に話しました」（第九章）

彼は、「**人間の姿をした霊（悪霊）と握手**した」ことも、そういう霊から「**水を浴びせられた**」ことも述べています。（第九章）

ただし、悪霊どもの偽装は完璧ではありません。たとえば、このような事例もあります。

### ★日本人の臨死体験例

【事例13】「水の中に立っていた。…水は濁っていて中が見えない。何かいて、履いてる**ズボンの裾を引っ張ってくる**。…何年も前に**亡くなった祖父**だった。…水の中で仰向けで片腕だけ伸ばして、私のズボンの裾を引っ張っていた。

薄っぺらくて、作り物みたいに見えたが、間違いなく**祖父**だった。…あの水の中にいた祖父は**地獄**に落ちたのか？ 引っ張っていたのは私を連れて行きたかったのか？…

でも、**あの声**は、祖父ではなかった」

### ■動物・昆虫・奇妙な塊にも変身する悪霊

かつて「サタンの使い」であったバガラス・カンコ師も、悪霊どもがさまざまな姿に変身できることを証言しています。（同書の《序》参照）

彼は、悪霊どもが、**男性、女性、子ども**などの**人間の姿**として現れることもできるし、**動物、昆虫、蛇、ハエ、トカゲ、タコ、イカ、カニ、ウミヘビ、魚**、あるいは、奇妙な塊（かたまり）などにも**変身**できること、さらに、悪霊の大きさも、顕微鏡で見えるくらいの**細菌（ばい菌・病原菌）**として現れるものもいれば、超高層ビルほどの大きさのものもいることを証言しています。

**サタン**は自分に仕える人間にも、**変身する力**を与えています。

バガラス・カンコ師がサタンの使いであった時、サタンは彼に、「**蛇、ワニ、チョウ、トカゲ、カニ**」の五つの生き物に**変わる力**を与えていました。

同じく元「サタンの使い」であったエマヌエル・エニ師も、かつて、彼が「**女性や獣や鳥や猫**」などに**変身**できるようにされていたことを告白しています。（詳細は→エマヌエル・エニ師著『祈りの奥義』参照）

## 7 《 偽造された「自分とそっくりの人間」 》

悪魔は、ある人物と「**そっくりの人間**」に変身して、その人の前に現れることもできます。

『**悪魔による偽造物**』（ラファエル・ガッソン著）の「第四章 透視と透聴」に記されている通り、「人間一人一人の生活をきわめて詳しく調査することができるほど**十分な数の悪霊どもが存在**」し、彼らはその人物の**姿に変身**できるだけでなく、その人物の**性格や背景、内密のことを詳しく知っており**、人々をだましています。

真のクリスチャン以外の人々が臨死体験で「自分とそっくりの人間」が現れたという報告もあります。

## ★日本人の臨死体験例

### 【事例14】

「トンネルを抜けると...そこには私が幼少期の時に亡くなった祖父がいた。  
私があたりを見渡すと、もう一人の自分。  
もう一人の自分はニコッと私に向かって微笑んだ...」

### 【事例15】

「同じ姿をした、もうひとりの自分が現れ、別世界へと誘われた」

### 【事例16】

「...気付いた瞬間、もう一人の僕が...何十発と自分の顔を本気で殴っていた、と言うよりか、殴られていた。

...

『すみませんでした』と反省し続ける僕に対して、容赦なく殴るもう一人の自分。親が『どうしたの?』と聞くぐらい顔が腫れ上がり...」

ラファエル・ガッソン氏もこの体験をしました（同書「第一章 サタンからキリストへ」参照）。

### 【証言3 その2】

「ある日の晩、私が落胆していた時、私を捕らえようと待ち構えていた悪魔が機会を見出したのです。  
私はロンドンの道を歩いていました。私の思いは非常にかき乱されており、何をすればよいかも、どこに行けばよいかも、わかりませんでした。

その時、突然、私は私の前に、私とそっくりの人間を本当に見たのです！  
...私がこの私自身の不思議な幻を見つめていると、その幻が話しかけて、こう言いました。

『私について来なさい』

私が片足を前に出すと、私の全身が持ち上げられるのを感じました。

私の頭の中は完全に空っぽになりました」

この「自分とそっくりの人間」が案内した先は、「心霊術者たちの教会」でした。（第一章）  
もちろん、この「そっくり人間」も、悪霊の変身でした。

真のクリスチャン以外の人々が臨死体験で、「光の存在者」を見たという報告があります。

しかし、悪魔は「神の天使」に見せかけて現れることさえ可能なのです。

聖書がこう記している通りです。

「サタン自身が光の御使いに変装する...」（第二コリント11・14）

## 8 《 本当の天国と偽物の「天国」（花畑） 》

真のクリスチャン以外の人々が臨死体験で、「花畑」などを見たという報告があります。

しかし、詳しく調べてすぐにわかるのは、それが本物の天国のパラダイスの光景とは異なる種類のものであることです。

### ■本物の天国

オスシツェ・ムシ師は、神によって案内された天国のパラダイスを、こう証言しています。（『天国の真実 第一集』参照）

#### 【証言4】

「...あたりの風景は、神の命で満ちていました。

その壮麗な光を通して、パラダイスの多くの被造物たちが見えました。

...パラダイスは命と光に満ちており、生きていました。

どの一つのものにも奇形のものがないのが見えました。

彼らは老いることはなく、永遠に若いままです。

...天国には、土壌がある場所もあれば、草地のある場所もあり、透き通った金の舗道と、広大で果てしない木々の森と、とても美しいさまざまな花との場所もあります。

...水晶のように透明な命の川は、首都である新しいエルサレムにある神の御座から来ています。

それから、それが枝分かれして命の多くの川々となり、天国のさまざまな場所に流れています。

巨大な山々や丘もあります。海や湖もあります。

何千種類もの動物王国もあり、私たちが家畜と呼ぶものも、野生の動物も、あらゆる種類の鳥もいます。

さらに、純白の服を着た大ぜいの天国の聖徒たちも、さまざまなタイプの大ぜいの天使たちもいます。

パラダイスは非常に広大で、果てがないように見えます。

...それは最高のものであり、栄光と感激と喜びが私に押し寄せてきました。

私はその都の巨大な金色の城壁にも気付きました。

...私は家や邸宅のようなものも見ました。それらは非常に大きく、金色でした。

首都および神の中央の御座の位置する東のほうから、いつも強い光が差しています。...

ところが、真のクリスチャン以外の人々が体験する「花畑」は、異種の世界です。

#### ★日本人の臨死体験例

##### 【事例17】

「地面を見ると、花畑は消え、あたりは真っ暗でした」

##### 【事例18】

「一面色とりどりの花々、虹、山、滝、色とりどりの鳥、チョウチョもヒラヒラ飛んでいた。

太陽のように白くまぶしい光の中に、神様が現れた。...神様に促されて、いろんな世界を見に行った。

暗く怪物のような奇妙な生き物がいる世界...もあった」

##### 【事例19】

「花畑にはチョウチョウや鳥やいろいろなものが飛んでいた。

遠くて顔はわからないが、三人の人がこっちへ来いとでも言うように手を振っていた」

##### 【事例20】

「花畑。空はなく、とても低い感じ。...三途の川...。

気付いたら、足はなく、よく描かれる幽霊のような下半身をした人が二人。私の方を見て手招きをしていた」

##### 【事例21】

「周りに白い花がいっぱいあることがろうじてわかるくらい真っ暗なところにいた。

...あんなに真っ暗で白い花がいっぱいあるような意味のわからない場所だった」

## 【事例22】

「木や山があり、いろいろな花も咲いているが、見たこともない花もあった。

その花から好い香りが漂っている花もあり、嫌な香りがする花もあった。

...私はすごい恐怖感を覚え、隠れるところを私は一生懸命、必死になって探した。

...暗い道を歩くと、怖い恐怖心が湧き上がるような感じで、私は不安と恐怖に襲われた」

いったい、どういうことなのでしょう？

# 9 《 臨死体験で演じられている「芝居」 》

## ■悪霊どもによる「芝居」

元心霊術の教師であったラファエル・ガッソン氏は、この「救出の働き」、すなわち、「悪霊による悪霊追い出し」について、こう述べています。（『悪魔による偽造物』第七章「救出の働き」『役割分担をしている悪霊ども』の項を参照）

### 【証言3 その3】

「...彼らは、信じ込ませるゲームを演じているのです。

彼らはまさに邪悪な霊どもですが、『良い』霊のふりをしている悪霊もいれば、自分を『邪悪』であると公言する悪霊どももいるのです。...

その行為は、うまく計画されています。

...こういう『だましごと』が演じられるのを可能にしている『人間のだまされやすい性質』を、どちらの霊も、いっしょにあざ笑っているのです」

真のクリスチャン以外の人々の臨死体験の多くも、悪霊どもによって演じられている「芝居」です。

悪霊には、「そっくりの変身」、「そっくりの声」、「そっくりの模造」、「内密（私事）の知識」、「悪魔による超自然的奇跡や病気のいやし」など、人間にはできない能力が多くあります。

彼らはそういう超自然的な能力を巧妙に使い、人間をだまして、『信じ込ませる芝居を打っている』のです！

## ■『芝居』の出演者...サタンと悪霊ども

登場する「亡くなった知人・親戚・動物...」の正体は、「変身した悪霊ども」です。

本物の「亡くなった知人・親戚...」が地獄（あるいは天国）から抜け出してきた『芝居』に登場しているわけではありません。

同書の「第九章 物質化...偽造の人間と物体」で明らかのように、悪霊どもは人間にも、動物にも変身できます。

しかも、彼らは人々の性格や背景も熟知しており、巧妙に「知人」や「親戚」に「なりすます」ことができます。

## ■『芝居...天国劇』が演じられている場所

それは、**地獄の入口の近く**にある、そういう「**臨死体験者**」専用の『**特設会場**』と考えられます。

そもそも、**本物の天国**は「トンネル」を通って行き着く場所ではありません。

「**トンネル**」を通って行く先の場所は、すでに見てきた通り、**地獄**です。

**悪霊ども**は、**地獄の入口近くの『特設会場』**に、そういう「**臨死体験者**」専用の「**花畑**」という**舞台を設置**して出迎えていると考えられます。

## ■微妙な（あるいは、大きな）ちがい

地獄の中に偽造されている「花畑」は、本物の天国のパラダイスとは全く比べものになりません。（前ページ参照）

本物の天国を知っている人々なら、その**微妙な（あるいは、大きな）ちがい**は明らかです。

**本物の天国**は、

「**命と光に満ちて**」おり、

「**奇形のものがない**」所であり、

「**栄光と感激と喜びが押し寄せて**」来るのが感じられ、

**神の愛**がいたるところに**浸透**している所です。

他方、**真のクリスチャン以外**の人々が**臨死体験**で見た「**花畑**」は、

「**暗く怪物のような奇妙な生き物**」が存在し、

「**足はなく、よく描かれる幽霊のような下半身をした**」者が存在し、

「**嫌な香りがする花**」も存在し、

「**周りに白い花がいっぱいあることがかろうじてわかるくらい真っ暗なところ**」、

「**すごい恐怖感を覚え**」、

「**暗い道**」があり、「**不安と恐怖に襲われ**」る場所です。

そこは、**本物の天国**ではなく、**悪魔と悪霊どもが支配している場所**です！

## ■臨死体験者たちの抱く錯覚

ところが、本当の天国を知らない**臨死体験者**たちの多くは、このような『**特設会場**』に案内されると、本物の天国の『**花畑**』を見たのだと**錯覚**してしまうのです。

そういう**臨死体験者**たちの抱く**錯覚**は、たとえば、こうです。

## ★日本人の臨死体験例

【事例23】 「**臨死体験**をすると、**死は怖くない**ことを知った」

【事例24】 「あれ以来、**死の恐怖**がなくなり...」

彼らが受け取るメッセージや感想は、同書でわかる通り、**心霊術の悪霊ども**が伝えようとしているものと似ています。

すなわち、「**悪魔は存在しない**」、「**地獄は存在しない**」、「**靈魂の生まれ変わり**」、「**死後の『裁き』の否定**」、「**死後は何もかもハッピー**」、「**罪に対する『永遠の刑罰』は存在しない**」などです。

# 10 《本物の地獄の恐怖》

(臨死体験と、悪霊の「芝居」より抜粋)

## ■臨死体験で恐怖を体験する人々

臨死体験はワンパターンではありません。

「トンネル」や「花畑」を体験しない人々もいます。(覚えていない可能性もあります)

また、『芝居』を見ずに、悪霊や地獄の本物の恐怖を体験する人々もいます。

それは、悪霊どもが本性を現している時です。彼らの姿は、もはや「変身(変装)」した人間の姿ではなく、このうえなくグロテスクで恐ろしいものです。

本物の地獄に案内され、本物の悪霊どもを見ることを許されたビル・ウィーズ師は、悪霊どもの姿をこう描写して証言しています。(HP「地獄での23分...ビル・ウィーズの体験」参照)

### 【証言5】

「一匹の悪霊は体中にうろこがあり、巨大な歯のある大きなあごがあり、爪は突き出ている、目は、くぼんでいました。彼らは実に巨大でした。

そして、これとは少しも似ていない別の悪霊もいましたが、それは体中に、かみそりのような鋭いひれがあり、一本の長い腕と、釣り合いのとれていない二本の足がありました。

どの悪霊も奇形で、ゆがんでおり、釣り合いがとれてなく、対称的ではなく、左右対称のものは何もなく、一方の腕は長くてもう一方は短く、とても奇妙に見える生き物で、恐ろしく、恐ろしく見える者たちでした」(『地獄での23分』HP参照)

臨死体験で、その恐怖の一部を体験した人々もいます。

## ★日本人の臨死体験例

### 【事例25】

「気づいたら真っ暗な世界にいました。...周りには顔が見えない人が沢山いた。...

私はその人達に腕を引きちぎられ、足を引きちぎられたりし、その世界でとても苦しんだ。

...今度は階段みたいな所に縛られ、同じ様なことをされ...そんなことを何回もされて、いっそのことこんな苦しい事が続くならもう生き返りたくない、死にたいと思った」

この「腕や足を引きちぎったり」したのは、悪霊以外の何ものでもありません。

そして、この「真っ暗な世界」も、天国ではなく、地獄の入口に近いどこかの場所と思われます。

## ■臨死体験で拷問を受けた人

同様の臨死経験をしたハワード・ストームという人がいます。(HP「地獄に行きかけた無神論者」参照)

### 【証言6】

「ますます暗くなるにつれ、徐々に彼らは残酷さを増していきました。

その生き物たちは私をからかい始めました。...

初めのうちは、それらの生き物は一ダースくらいいるようでしたが、その後は、四十匹か五十匹くらいいると思うようになりました。

さらにその後では、何百匹か、それ以上いるようでした。...

その生き物どもは私を押ししたり突いたりして反応しました。

最初は、私はうまくやり返して、彼らの顔を打って彼らを蹴ることができました。

けれども、私は彼らに少しも苦痛をもたらすことができませんでした。

彼らはあざ笑っているばかりでした。

それから彼らは指の爪や歯で私をひっかき始めました。

私は本物の体の痛みを経験しました。

これは長い間続き、私は戦って、彼らをかかわそうとしました。

それが困難だったのは、私が大ぜいの者たちの真ん中において、私の周囲に彼らの手や歯があったからです。

私が悲鳴を上げて、もがけばもがくほど、彼らはそれをますます気に入っていました。

その騒がしさは、ものすごいものでした。

残酷な笑い**と絶え間ない拷問**があったからです。

それから彼らは、別のさまざまな仕方でさらに私を侮辱したり、暴力を振るったりしました。

それは、あまりにも恐ろしくて話すことができません。

その会話も、想像できないくらいにひどいものでした。

ついに私にはもうこれ以上戦う力も能力もなくなり、地面に倒れました…」

この人は、この時、無神論者の大学教授でした。彼はまさに地獄の中に行こうとしており、すでに大ぜいの悪霊どもから拷問を受けていたのです。その続きは、こうです。

#### 【証言 6 続き】

「このうえなく深い**絶望**のその瞬間、私の子どもころの歌声が頭に浮かんで来ました。

私が日曜学校に出かけて行った時のものでした。

『イエス様は私を愛しておられます…

イエス様は私を愛しておられます、私はそれを知っています』

…私の知性も力も心も、私の存在のすべてをもって、私は**暗闇の中**に向かって叫びました。『どうかイエス様、私を救ってください!』

私は**本気**でした。私はそれを疑うことはなく、私の全存在をもって本気でそう言いました…」

幸いにも、彼は**本気**でイエス・キリストを受け入れました。そして、**地獄**に行く必要はなくなりました。

この臨死体験後、彼はイエス・キリストの福音を伝える牧師となりました。

(『天国と地獄の現実』 HP「[地獄に行きかけた無神論者…ハワード・ストームの体験](#)」参照)

## 11 《 悪霊どもによる本物の拷問 》

(臨死体験と、悪霊の「芝居」より抜粋)

確かに恐ろしい「**臨死体験**」も存在しますが、**本物の地獄の体験**は、それとは比べものになりません。

ビル・ウィーズ師は、悪霊どもによる**本物の拷問**を体験し、こう証言しています。

(HP「[地獄での23分…ビル・ウィーズの体験](#)」参照)

#### 【証言 5 続き】

「一匹の悪霊がすぐに私をつかんで、私を**拾い上げ**、コップを投げるように私を**壁に投げつけ**ました。

すぐに彼は、コップを拾うように私を**拾い上げ**ました。…

彼が私を壁に投げつけると、私の体のすべての骨が折れました。

しかも私は痛みを感じたのです！

すぐに私はその床の上で横たわり、あわれみを求めて泣き叫び始めました。

しかし、これらの生き物は少しもあわれみを持っていません。

完全に全くあわれみを持っていないのです。

一匹の悪霊が私を拾い上げると、もう一匹の悪霊が、かみそりのように鋭い爪で私の肉をずたずたに切り離しました。

彼はすぐにそれを引き裂きました。...

その悪霊はこの体に対して全く何も気にしませんでした。その悪霊は私に対してとても激しい憎しみを持っていました。...

私の肉は、ずたずたになって、そこにぶら下がっていました。

そして、そこには血が全くなく、肉だけがぶら下がっていました。

なぜなら、命は血の中にあり、地獄には命は全く存在しないからです。

また、地獄には水も全く存在しません。

私は完全に彼らの思うままでした。

地獄で悪霊どもはあなたの命を支配するのです。

## 【証言 5 続き】 [悪霊の臭い・地獄の臭い]

これらの悪霊の臭いも、地獄の臭いも、実にひどいものでした。私はそれをみなさんに描写することさえできません。

肉が焼かれる臭い、硫黄の臭いがありました。

これらの悪霊どもの臭いは、下水、腐った肉、腐った卵、酸っぱくなった牛乳などに似ていました。

それを取って1000倍にし、あなたの鼻に近づけてみてください。そして、それを吸い込んでみてください。それは非常に有毒で、人を殺してしまうくらいでした。

もしみなさんがその肉体でそこにいとすれば、きっと死んでしまうはずですよ。

私は、『この臭いをかいでいながら、なぜ私は生きているのだろう、こんなにひどい臭いなのに』と思いました。

しかし、それでも人は死なないのです、人はそれに耐え忍ばなければならないのです。

あわれみは天国に存在します。

あわれみは神から来ます。

しかし悪魔はどんな種類のあわれみも知りません。...

そこは、人が耐え忍ばなければならない、残酷で、悲惨で、恐ろしい場所です。

そういうものを全部耐え忍ばなければならないのです。

悪霊どもが知っているのは、神への憎しみ、あなたへの憎しみと拷問だけです。

そして彼らはあなたの命を支配し、あなたはそれについて何もすることができないのです。...」 (HP「地獄での23分... ビル・ウィーズの体験」参照)

## ■もはや「芝居」を見なくなる時

悪魔と悪霊どもが人々の臨死体験で『芝居』を打っているのは、人間がイエス・キリストの福音を受け入れて天国に行くことがないようにするため、すなわち、地獄に送り込むためです。

人はだれでも、実際に自分の死を体験する時が、いずれ来ます。

その時、真のクリスチャン以外の人々が『芝居』を見ることは、もはやなくなります。

悪魔が「芝居を打つ」必要はなくなるからです。



# 12 《死に物狂いの動きをしていた人々》

(臨死体験と、悪霊の「芝居」より抜粋)

臨死体験者たちが悪霊からどんな暴行を受け、どんな恐怖を体験したとしても、本物の地獄の永遠の苦しみには、はるかに及びません。

聖書はこう言っています。

「もしだれかがその命の書に書かれている者として見出されなかったなら、その人は火の池に投げ込まれた」(黙示録20・15)

本物の「火の池」の苦しみを体験することを許されたマイケル・イーガー師は、次のように証言しています。(『地獄の恐怖・天国の壮麗』参照)

## 【証言7】

「...地獄の大海原の表面から二千フィート(600メートル)ほど上方のところで、私の体に打ち当たっていた痛みは、圧倒するばかりの、耐えがたい、信じがたい、そして、すべてを焼き尽くしてしまうほどのものでした。

私の両方の肺は燃えていました。私の両目は焼かれており、飛び出しそうに感じました。

私の服はすでに焼かれていて、溶けて私の肉にくっついていました。大やけどを越えていました。...私は自分が向かって進んでいる方向を見下ろしました。

火の湖の表面に、小さな黒い物体のようなものが激しく上下に動いているのが見えました。

...

ところが、それらの物体の両端に手足が付いていました。そして、それらの手足は、前後に、また前後にと波のように揺れており、死に物狂いの動きをしていました。

突然、私は自分が何を見ているかに気付き、私の奥底から、深い、苦痛のうめきを吐き出しました。

これらの動いている黒い物体は、人間たちにほかならなかったのです！

人々です！

彼らは、あらゆる国と文化と民族と言語の、大ぜいの人類でした。

そして彼らは悲鳴を上げ、うめき、金切り声を上げており、その渦巻く溶岩の中で、ひっくり返され、投げ飛ばされ、真逆さまにされ、さらわれていました。...

それは永遠に呪われたたましいたちでした。

それは、希望も、逃れることも、助けも、苦痛からの救助も、全くないたましいたちです。

もしかすると、これらの人々は、みなさんや私が知ったことのある人たちかもしれません。

キリストを愛することなく死んだ父たちや母たち、兄弟たちや姉妹たち、おばたち、おじたち、近所の人々、友人たちです。...

神は義なる神であられるゆえ、罪を裁かなければなりません。

これらの人々がこの真理を発見した時は、もう手遅れでした。

というのも、彼らが死んで目覚めたら、硫黄と火の、恐ろしい、煮えたぎる湖の中だったからです。

彼らには、逃げ道は全くなく、苦痛からの助けも全くなく、将来への望みも全くありません。

これらの人々には、終わることのない拷問の苦しみと、寂しさと苦痛以外、待ち望むべきものは何もありません。

彼らの体は、バーベキューの炉で焼かれすぎたチキンのように真っ黒に焼かれていました。決して終わることのない地獄の、その消えることのない炎が、彼らのたましいを真っ黒にしていました。その場所にいた人々は、生きて動いている木炭のかけらのように見えました...」

## 13 《 火の池の中の体験！ 》

(臨死体験と、悪霊の「芝居」より抜粋)

### ■火の池の中の体験！

マイケル・イーガー師は、自ら、この地獄の火の池の中の体験をしました。

(『地獄の恐怖・天国の壮麗』参照)

#### 【証言7 続き】

「...私はその溶岩の中に突入しました！  
それは、燃えている泥か流砂のようでした。  
すぐに、それは恐ろしい凶暴さで私を中に吸い込みました。  
それは私を包み込み、私を下へ引っ張り、終わることのない苦しみと痛みの中へ私を飲み込みました。  
それは私に覆い被さり、私の口も鼻も耳も目も、圧倒するばかりの強烈な燃えるような痛みで満たしました。  
炎を上げて燃える地獄の硫黄が私の口の中に入りました。  
それは私ののどを下って行き、私の腹の中に入り、私の両方の肺に満ちました。  
私は完全な恐怖のバプテスマで浸されました。  
私の両目は焼き尽くされて飛び出しそうに感じました。...  
私の全身に火が付いていて、キャンプファイアーの赤い石炭の中にマシュマロが落ちたように燃えていました...」

(『地獄の恐怖・天国の壮麗』参照)

## 14 《 聖なる都・キリストと 大ぜいの聖徒たちの幻 》

ソロモン・B・ショー (『天国に行った人々・地獄に行った人々』より抜粋)

### ■とても美しい天使たち

私(ソロモン・B・ショー)の知人であるケアリー・カーメンが死の淵に立っていた時、彼女は上を見つめ、こう叫びました。

「美しいわ！ 美しいわ！ 美しいわ！」

だれかが尋ねました。

「何がそんなに美しいんだい？」

「ああ、**彼らはとても美しいわ**」

「何が見えるんだい？」

「**天使たちよ**。彼らはとても美しいわ」

「彼らはどんなふうに見えるんだい？」

「ああ、私には言えないわ、彼らはとても美しいのよ」

## ■どんな歌よりも美しい歌・聖なる都

「彼らには羽根があるの？」

「そうよ。聞いて！ 聞いて！」

彼らは、私が今まで聞いた**どんな歌よりも美しい歌**を歌ってるわ」

「キリストが見えるの？」

「ノー。でも、**あの聖なる都**が見えるわ。

葦で測ると、『**長さ**と**幅**と**高さ**は**同じ**』（黙示録21・16）、**あの都**よ。そのてっぺんは、空にまで届いているわ。どんなにすばらしいか私には言えないくらい、**とても美しいわ**」……

それから彼女は、彼女の夫が寂しい思いをすることになることについて話し、彼が妻に先立たれる思いに耐えられるようにと祈りました。彼女は彼女の両親のためにも祈り、**その美しい都**の中で、破られることのない**きずな**で彼らがいっしょになれるようにと求めました。

## ■イエス・キリストと大ぜいの聖徒たち

彼女は目を閉じ、そして一瞬、安らぎ、それから輝きのある目で上を見上げ、こう言いました。

「私は**キリスト**が見えるわ。そして、ああ、彼はとても美しいわ」

彼女の夫がふたたび尋ねました。「彼はどんなふうに見えるんだい？」

「私には言えないわ。でも、**彼は、はるかに、はるかに美しいわ**」

ふたたび彼女はこう言いました。「あの**聖なる都**が見えるわ」

それから、一瞬、見つめて、こう言いました。「とても大ぜいよ！」

「何が見えるんだい、何がとても大ぜいいるんだい？」

「人々よ」

「どのくらい大ぜいいるんだい？」

「とても大ぜいよ。私には**数えられないくらい大ぜいよ**」

「だれか知っている人は？」

「いるわ、大ぜいいるわ」

「誰？」

「おじのジョージと、大ぜいよ。

彼らは私を呼んでいるわ。彼らは私を手招きしているわ」……

## ■天国への旅立ちの時

彼女は目を上げて、こう言いました。

「ああ、私をこのベッドから離して運んでください」

彼女の夫はこう言いました。

「彼女はベッドから降ろしてほしいんだ」

しかし、彼の父親はこう言いました。

「彼女は**天使たち**と話しているんだ」

彼女にそのことを尋ねると、彼女は、「そうよ」と答えました。それから彼女は医師に、これまで親切にしてくれたことへの感謝のことばを述べ、**天国でお会いしましょう**と言いました。

彼女は目を閉じると、すばやく沈んで行きそうに見えました。

...彼女は、彼女自身のために祈り、また彼女の友人たちのためにも祈りました。

...彼女は、まるで、とても美しい数々の光景があるかのように、**上を見つめ、笑みを浮かべました。**

(『天国に行った人々・地獄に行った人々』より抜粋)

# 15 《 2015年の天国訪問 》

オスシツェ・ムシ師

オスシツェ・ムシ師は2010年以降、天国・地獄に幾度も案内され、多くの啓示を受けています。詳細は、『天国の真実 第1集』『天国の真実 第2集』『クリスチャンへの警告 携挙の真実』を参照ください。

## ■天国への旅立ち

...私は、何か目を見晴らせるようなことは全く何も**予期**していませんでした。

私は、主が彼の御臨在と御力で私を満たしてくださると思っていただけでした。

ところが、主はそれ以外のことを思っておられました。

祈りの後、私は眠りに就きました。真夜中に私は目を覚まし、それから、...

**聖霊の御力**が突然私の上に臨まれ、私を満たし、私を力づけました。

私は、私の**霊が体から離れる**のを感じました。

私は**上方へ**連れ去られました。

以前、私が**天国**を訪れるべく高速で連れ去られたことは何度もありましたが、この時ほどの信じられないような速さで旅をしたことは一度もありませんでした。

私は、私の**霊の体**が、**風に運ばれる一枚の羽根**のようにとても軽いのを感じました。

これは、**霊が体から離れる**体験でした。

聖霊が私の**霊を天国**へと運ばれる時、『フーーーーーシュ』という大きな音が聞こえました。

私は、私の**霊の体**の顔などに、**風の涼しい冷気**を感じました。

私は上向きで飛んでいました。私はとても軽く、少し透明に見えました。

私には依然として感覚がありました。事実、それはいっそう高められていました。

それから私はいくつもの**雲**を見ました。

それらの雲は横に分かれたり、別の方向に離れたりしました。

以前は雲を通り抜けたことがありましたが、今回はそうではありませんでした。 ...

## ■パラダイスの中

しばらくして、私たちは**神の領域**に入りました。

そこには、**穏やかな風と光の輝き**とがありました。

それから、**美しい天上の星々**が見えました。それらは**水晶のように透き通って**いました。

こう告げる声が聞こえました。

「ここは**第三の天**です」（新約聖書 第二コリント12・1～4 参照）

私たちはそこに近づいて行き、その中に入りました。

私たちが初めに着いたのは、この圧倒するばかりの、見事な**パラダイスの中**でした。

この時も、私が以前そこを訪れた時と、よく似ていました。

私は、以前に自分がいた場所を思い出しました。

私は、**金色のように見える色の植物**や、**真緑色の植物**を見ました。**黄色や赤色の植物**もです。

**木々**は緑色で直立しており、色の混ざったものもありました。

背丈の高い**草**、**美しい花々**もありました。

この場所は**神の光**で満ちていて、**信じられないような光景**でした。...

## ■命の川

水晶のような**命の川**がパラダイスを流れているのが見えました。

私はその大気の中で飛んでいましたが、それを見た時、もっと低い所を飛び始めました。

その後、私の両足は、その川の上にあります。

**水の動き**が見えましたが、私は全く濡れませんでした。

天国で人々は水の上を歩くことも、泳いで川を渡ることもできます。

この川は**神の御座**から、**都**や**パラダイス**の中へ流れています。

## ■天国で見た黒人男性

私は、ハンサムな若い黒人を見ました。（天国では、だれもが若くて、健康で、たくましく見えます）

彼は**白い長服**を着ていました。彼はパラダイスを歩いて通っていました。

私は彼と話すこともしませんでした。私が彼を見た時、聖霊は私に、彼がだれであるかを告げられました。

聖霊が私に啓示されたことの一つですが、その黒人は、かつては熱心なラスタファリアン（エチオピアの旧皇帝ハイレ・セラシエ一世を黒人の救世主とし、アフリカ回帰を唱える）でした。

彼はその後の人生で、悔い改めて**イエス・キリスト**に命を献げ、彼のために生きました。

そして彼は死に、**天国**に案内されました。

彼は**とても幸せそう**でした。彼はその川べりを歩いて、パラダイスの南へと向かっていました。

私は、「ワウ」と声に出しました。

主が私にこのことを見せてくださったのは、ある目的のためでした。

## ■天国で会った聖徒たち

天国では、物事が**超自然的に**わかります（啓示による知識）。

私の以前の訪問や幻で、私は天国にいる人々を初めて見ても、彼らがだれであるかを正確に知りました。私は地上で彼らと一度も会ったことがなかったのに、です。

私が見た聖徒たちは、アブラハム、ヨセフ、私たちの主なるイエス様の母マリア、使徒パウロ、エリヤ、エノク、愛する弟子ヨハネ、ペテロ、ダニエル、サムエル、族長たち、子羊の使徒たち、聖書の有名な人たちや偉大な聖徒たちなどです。

聖霊はその超自然的な知識を私の霊に分与してくださり、この人が〇〇ですと言われるのです。

## ■子どもたちと女性のインストラクター

私は金の道の上を飛んでいました。

それから、地上のあらゆる人種から成る幼い子どもたちのグループが見えました。

彼らは小さな白い長服を身に着けていました。

彼らはとても幸せそうで、微笑んでいました。彼らの中で、笑い声が聞こえました。

彼らには一人のインストラクターがいました。女性の存在者でした。

子どもたちのインストラクターたちは、母親のような聖徒たちと女性の天使たちで構成されています。

私はこう言いました。

「ワウ、幼い子どもたちだ」

私が啓示によって知っているのは、彼らの中には、地上での中絶手術のために死んだ子どもたちもいれば、それ以外のさまざまな原因で死んだ子どもたちもいることです。

彼らは天国に来ると、成長していき、神についての知識を教わります。...

それから私はイエス・キリストとお会いしました。彼は歩いておられました。

彼の髪は金色で、彼の両肩にまで流れており、美しい髪でした。

彼の長服は白くて、優雅に彼の上に掛かっていました。

それは最上の長服で、とても白く、あらゆる意味できちんとしていて完璧でした。

その方こそ、私のたましいの愛して慕う方であられました。

私は彼といっしょにしばらく歩きました。

## ■「彼らに告げなさい、...」 イエス・キリストからのメッセージ

主はこう言われました。

「行って、人に告げなさい、もし彼が本当に悔い改め、彼の罪深い生き方から立ち返り、私のもとに来るなら、私は彼を赦し、彼を受け入れ、以前の彼の生活がどんなに罪深いものであっても彼を義とします。

人に告げなさい、私は彼に新しい命を与えたいと望んでいることを。

私を自分の生活の中心とした人々、私の前にまっすぐに歩いて、行うすべてのことで私を喜ばせている人々に告げなさい、彼らの地上の旅路が終わる時、私は彼らを連れてくるために私の聖なる天使たちを送り、そうして彼らは私がいるこの場所で私といっしょに生きることができるようになる、と。

彼らに告げなさい、義なる生活をおくり良い行いをするに疲れてはならない、と。

彼らに告げなさい、この曲がった世代のただ中で光として生きるべきことを。

彼らに告げなさい、彼らは自分の報いを失うことは決してない、と。

彼らの報いは天国において私とともにあります。..... (略) 」

私は、紙上に表現することのできない、信じられないような存在者たちや物を見ました。

私はそれらをどう描写すればよいか、わかりません。

主は私にいくつかのことについて語られました。

私が立って、東のほうに目を向けると、果てしなく広大な被造物、野原、ジャングル、あらゆる種類の動物のいる森などが見えました。

## ■天国の邸宅・目を見張るような美しい光景

それから突然、私は風のように別の局面に案内されました。そこで私は、都の一部を見ました。大きな、広々とした数々の邸宅が見えました。配列は完璧で、それらの邸宅には宝石がちりばめられていました。水晶でできているような邸宅もありました。それらは完全に透き通っているように見えました。輝きのあるガラスの邸宅もありました。長方形の邸宅もありました。それら邸宅のてっぺん、あるいは屋根は、びっくりするようなものでした。長い列に連結されている邸宅もありました。さまざまな大きさと形とデザインの家や邸宅や建物がありました。それらの邸宅は荘厳なものでした。私は、その裏庭を歩きました。それらの邸宅の周囲には壁は全くありませんでした。その代わりに、花や美しい草木の庭園がありました。その花々は、だれも手入れしなくても自ずと育っているように見えました。それらのものを妨害するものは何もないようでした。それらは完璧でした。私が見たほとんどの邸宅は、未入居でした。また、大ぜいの人が同居できるようにデザインされた邸宅もありました。私はさまざまな邸宅を見ました。透き通った緑色の宝石のように見える一軒の邸宅がありました。ソフトな緑色の光でした。それは、目を見張るような美しい光景でした。いたるところに、美しい道、光、さまざまな色が存在しました。... (『クリスチャンへの警告 携挙の真実』より抜粋)

# 16 《 2015年の地獄訪問 》

オスシツェ・ムシ師

## ■私は地獄に案内された！

今朝の午前3時、主は私を地獄に案内されました。私の霊の目は開かれており、私は滅びたたましいたちの領域に案内されました。私は、地獄がさまざまな部門やレベルに配列されているのを見ました。私は最初に、赤くて熱いマグマ、液体の火を見ました。そこで私は、熱い火が渦巻き状に動いているのを見ました。まるで、その底に、その火をあおいでいる何かが存在するかのようでした。それが回転すればするほど、ますます熱くなりました。人々はその恐怖で悲鳴を上げていました。私は、それが非常に熱いとわかり、それに近づきたくありませんでした。私は別の場所を見ました。燃えている大きな炎が見え、闇の中で、おびたしい数の人々が悲鳴を上げているのが聞こえました。そこには火と暗闇が存在しました。最初、私が聞いたのは、叫び声や、泣き声や、うめき声でした。ところが、それらの声がどこから聞こえてくるのか、私には見えず、わかりませんでした。しかし、どういわけか、私はのぞき込んで見ることができたのです。

地獄のある一つの場所で、**私がいっしょに学校に通ったことのある人**を私は見ました。  
その人は、私の名前を呼んで**叫んで**いました。  
あたりに他の人々もいましたが、だれなのかは見分けがつきませんでした。  
彼らも、それぞれ自分なりの**拷問**に捕らえられており、空中に**手を投げ出し、体は焼かれていました...**

## ■だまされている人々

主はこう言われました。

「**死んでから**地獄にいる自分を見出すことになる人々が大ぜいいます。...

この人々は、本当はそうでないのに、自分は私と正しい関係にあると考えるよう、**だまされています**。

行って、彼らに**警告**しなさい。

私は彼らが**心を尽くして私につき従い、私を彼らの生活の中心とすること**を望んでいます。

彼らは、**私**を彼らの人生の**主**としなければなりません。

私が何らかのことについて彼らに警告する時、彼らは従わなければなりません。

私は、私の御霊により、彼らの心の内で、彼らに語ります。

また、彼らを矯正するために私の聖徒たちを送ることもあります。

この世への愛と、多くのたましいを誘惑するためにサタンが形作った**娯楽産業**のために、多くのたましいがこの場所に行き着いています。

行って、彼らに告げなさい、私をも世をも愛することは、だれ一人できないことを。

彼らは**選ばなければなりません**」...

## ■地獄にいた、あらゆる種類の人々！

この場所には、あらゆる種類の**悪霊ども**と**拷問**が存在しました。

私は、悪霊どもが人々を**あざけったり**、彼らを**突き刺したり**、**目をえぐり出したり**しているのを見ました。

人々は**死ぬほど叫んで**いました。

**あらゆる種類の恐ろしい拷問**がありました。

...悪霊どもは彼らの上に**跳び乗り**、彼らを**突き刺し**、彼らの**肉を引き裂き**ました。

私は泣いており、私の顔を隠そうとしながら、こう言いました。

「私はこれを見ることはできません！ 私はこれを見ることはできません！」

**頭を切断された人々**もいました。

地獄には、多くの場所に、さまざまな仕方で死んだ**あらゆる種類のたましい**が存在しました。

彼らは、さまざまな**罪**の中で死に、そして、多くの仕方で**拷問**を受けていました。

**老人も若者も**いました。**病気**で死んだ人々も、**健康**なままで死んだ人々もいました。

**白人**もいれば、**黒人**もいました。買い物をしていた時に死んだ人々、**事故**で死んだ人々、テロリストに襲われて死んだ人々、神秘的な死に方をした人々、誘拐されて儀式でいけにえにされて死んだ人々、病院のベッドで死んだ人々などもいました。彼らは**不信者たち**でした。...

そういう人々はみな**拷問**で苦しみを受けており、あの**火の炎**や、**悪霊ども**や、地獄のさまざまな**拷問**を逃れることはできませんでした。

地獄は**非常に広大**であり、**人々で満ちています**。

**自分の心の中に偶像を持っていた人々**のいる場所も存在します。彼らは、神以上に、神以外のものを愛して崇拜し、それらのものが彼ら自身の**偽の神々**となっていたのです。（出エジプト記34・14）



## 偶像礼拝する人々が天の御国を相続することはありません。

性的な罪、淫行、姦淫、売春、レイプ、同性愛、情欲などに関わっていた人々のための場所も存在します... 酒飲みたちのための場所、殺人者、白人たち、インディアンたち、黒人たち、よく知られた人々・有名な人々、金持ち・貧乏な人々のための場所も存在します。

### ■新しく生まれ変わって正しい生活をする

主は私にこう言われました。

「あなたにこのことを語っておきましょう。

『あまりにも**金持ち**であるために、あまりにも**有名**であるために、地獄に行くことは**あり得ない**』という人は、**一人もいません**。

**新しく生まれ変わって正しい生活をしている**のでなければ、その人が地上でどのような**社会的ステータス**を持ってしようと、**最後は地獄に行き着く**こととなります」

私は『**マグマ**』のようなものの上方を漂っていました。

「ああ、これは恐ろしい！」と私は泣き叫んでいました。

私は主に、「私はあれを見たくありません」と言っていました。

たましいたちは、**炎の中**で、また**悪霊ども**により、**拷問**で苦しめられていました。

私は自分の両手で私の目を覆おうとしました。

主はこう言われました。

「あなたはこれを見て、この場所のことを人類に**警告**する必要があります」

どうか、地獄に行かないでください。

**きょう**、あなたの罪を悔い改めて、聖い生活をしてください。 ...

(『**クリスチャンへの警告 携挙の真実**』より抜粋)

人間が死ぬ時、その人が**真のクリスチャン**の場合と、それ**以外**の人の場合とで、そのようすも行き先も**全く異なります**。

神の真の子どもであるクリスチャンが死ぬ時、その人の霊は体から離れ、神の御使い(**天使**)たちに護衛されて**天国**へ行きます。

けれども、**真のクリスチャン以外**の人々が死んだ場合は、全く異なります。彼らに**悪霊ども**が現れ、**地獄**へと彼らのたましいを引きずり下ろして行きます。

前者の人々は、現在も、そしてこれからも永遠に、天国で**このうえなく幸せな至福の中**にいます。

後者の人々は、地獄で**このうえなく苦しくてつらい拷問**を受けており、やがて**燃えさかる火の池の中**で**永遠を過ごす**こととなります。

**地獄**における永遠の滅びではなく、**天国**における永遠の命と幸いを選択しようではないでしょうか。

# 17 《 今が救いの日！ 》

聖書はこう警告しています。

「私たちは...あなたがたが神の恵みをむだに受けないうよう勧告します。  
なぜなら、彼（神）はこう言われるからです。  
『私は、受け入れられる時に、あなたに聞き、救いの日に、あなたを助けた』  
見よ、今が喜んで受け入れられる時、見よ、今が救いの日なのです」  
(第二コリント6・1、2)

(イエス・キリストによる救いについては、『地獄に行かず、天国に行く方法』をお読みください)

■神はあなたを深く愛しておられます！

神はあなたを深く愛しておられます！

人間は死んでから無に帰するのではなく、天国か地獄で永遠に生き続けます。

罪があるままでは、100パーセント確実に地獄に行き、  
永遠に苦しみ続けることになります！

もちろん、神はあなたが天国に入れるようになることを望んでおられます。

イエス・キリストは、あなたにこう語っておられます！

「私はあなたがたが地獄に行くことを望んではいません。  
私は、私自身の喜びのため、またいつまでも続く交わりのために、あなたがたを造りました。  
あなたがたは私が創造したものであり、私はあなたがたを愛しています。  
私が近くにいる間に私を呼び求めなさい。  
そうすれば、私は聞いてあなたがたに答えましょう。  
私はあなたがたを赦して祝福したいと願っています」

《イエス・キリストから世界へのメッセージ》より

★HPから、こちらを順にお読み下さい。

《 1.神様はどのようなお方か？ 》 《 2.罪とは何か？ 》 《 3.どうすれば天国に入れてもらえるのか？ 》

★HPから、こちらもお読みください。

■天国での感激の再会！ ■地獄で焼かれていた兄弟と友人たち！

■スキューバ・ダイバーの体験 ■サタンにだまされて地獄に来た16歳の少年

■クリスチャンたちをあざ笑い、福音をばかにした男の結末 ■私は地獄の中を歩いた！

■神を拒んだ老婦人 ■ガーナの少年が目撃した最後の審判！ ■地獄に行きかけた無神論者！

■地獄での23分...ビル・ウィーズの体験 ■本物の「地獄」体験と、サタンによる偽物の「光」体験

★ この表示付であればコピー・無料配布・インターネット上への転載が自由にできます。

Copyright c. エターナル・ライフ・ミニストリーズ <http://www.eternal-lm.com>

《天国と地獄の情報》 <http://www.tengokujigoku.info>